

今日の説教のポイント<マタイによる福音書9章14~17節>

①イエス様を責める人たちに共通していること。

9章に入って、立て続けに3つ、イエス様の言動を責める人たちのことが記されていました。彼らは、イエス様が「あなたの罪は赦される」と言われたこと、イエス様が徴税人や罪人と一緒に食事をしたこと、そしてイエス様の弟子たちが断食しないことを非難したのです。この人たちに共通しているのは何でしょうか？ 神様が正しいとされることを熱心に追求するのはいいのですが、他人の言動に目を光らせて「けしからん」と心乱していることではないでしょうか。

②イエス様と彼らの違いはどこにあるか。

断食は旧約聖書だけでなく、イエス様も認められており(6:16)、初代教会でも行われていた行為です(使徒言行録13:2)。しかし、イエス様の弟子たちは断食をしなくなっており、イエス様もまたそれによしとされていたのです。どうしてでしょうか？ イエス様は、「花婿と一緒にいる間、婚礼の客は悲しむことができるだろうか。」(15節)と言われました。断食をすることがゴールなのではありません。父なる神様が与えて下さったイエス様を覚えて生きることがゴールであり、喜びなのです。断食しても別に悪くありません。しかし、それで他の人が断食しているかどうか目に光らせるようになるなら本末転倒です。イエス様を見上げて生きるとき、断食は必要でなくなってくるのです。

③断食より収穫感謝。感謝して食べることを喜ばれる神様。

今日の礼拝後、日曜学校主催で収穫感謝の集いを行います。食を断って神様を覚える行為である断食とは正反対の、神様から与えられたものを食べて神様のことを覚えて感謝する行為です。しかし、こちらの方がずっと喜びに満ちて神様を覚える行為ではないでしょうか！パウロもこう言っています、「市場で売っているものは、良心の問題としていちいち詮索せず、何でも食べなさい。『地とそこに満ちているものは、主のもの』だからです。」(コリントI 10:26-27)。